

青病防第34号
令和8年7月10日

報道機関各位

青森県病虫害防除所長
(公印省略)

令和8年度病虫害発生予察情報「注意報」第1号
(斑点米カメムシ類) について

このことについて、令和8年7月10日付けで発表したのをお知らせします。

報道機関用提供資料	
担当部署	青森県病虫害防除所
担当者	所長 三浦 嘉浩
電話番号	直通 017-729-1717

令和8年度病虫害発生予察情報

注意報 第1号

令和8年7月10日
青森県病虫害防除所

斑点米カメムシ類の発生が多くなっています。
出穂7日前までの草刈りと出穂後の薬剤防除を徹底してください。

病虫害名 斑点米カメムシ類（アカヒゲホソミドリカスミカメ）

作物名 水 稲

1 発生地域 県内全域

2 発生量 多 い

3 注意報の発生根拠

- (1) 県内6か所（青森、木造、鶴田、十和田、七戸、八戸）において、6月第6半旬におけるアカヒゲホソミドリカスミカメの性フェロモントラップの平均誘殺数は、4.5頭と平年の1.9頭を大きく上回った。
- (2) 仙台管区气象台が7月2日に発表した東北地方1か月予報（7/4～8/3）によれば、「向こう1か月の天候は、平均気温が高い見込み、降水量がほぼ平年並の見込み」であり、斑点米カメムシ類の発生に好適な気象条件が続くと予想される。

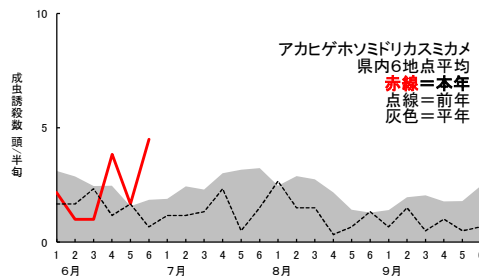


図 性フェロモントラップによる斑点米カメムシ類の誘殺数の推移
(設置場所：畦畔)

4 防除方法

(1) 除草による耕種的防除

ア 畦畔の草刈りは出穂7日前までに終わる。また、水稻の生育は6月30日現在、平年並～1日早い見込みであるが、今後の天候でさらに早くなることもあることから、遅れずに作業を終える。詳しい出穂期の予測は、青森県農業・就農情報サイト「農ナビ青森」の水稻生育予測で確認する。

(<https://www.nounavi-aomori.jp/farmer/predict>)

イ やむを得ず出穂後に草刈りを行う場合、残効性が高い薬剤は散布直前から1週間以内、それ以外は散布後速やかに行う。

ウ ノビエ、ホタルイ及びシズイは斑点米カメムシ類の発生源となるので、水田内の除草を徹底する。

(2) 薬剤による防除

ア 薬剤により散布適期、散布回数が異なることに留意し、適期防除に努める。

イ 多発が見込まれる水田では、最終散布の7～10日後に追加防除を行う。

【1回散布を基本とする方法】（残効性の高い薬剤を使用）

薬剤名	IRACコード	有効成分	使用回数	散布時期
キラップ	2 B	エチプロール	2回以内	穂揃期～穂揃7日後
スタークル	4 A	ジノテフラン	3回以内	穂揃7～14日後
アルバリン	4 A	ジノテフラン	3回以内	穂揃7～14日後
エクシード	4 C	スルホキサフロル	2～3回以内	穂揃7～10日後

【2回散布を基本とする方法】（上記以外の薬剤）

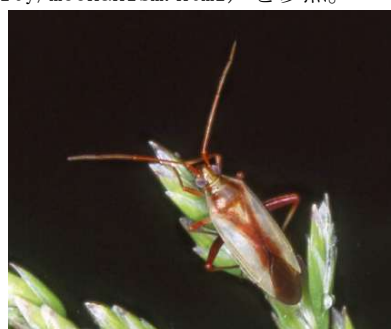
薬剤名	IRACコード	有効成分	使用回数	散布時期
エルサン	1 B	P A P	2回以内	1回目：穂揃期
スミチオン	1 B	M E P	2回以内	2回目：穂揃7～10日後
トレボン	3 A	エトフェンプロックス	3回以内	

注1) 「青天の霹靂」、「青森クリーンライス」などの生産に当たっては、栽培基準を確認し薬剤を使用する。

注2) IRAC農業用殺虫剤作用機構分類の最新版はクロップライフジャパン（旧農薬工業会）ホームページ (<https://www.croplifejapan.org/activity/mechanism.html>) を参照。



アカヒゲホソミドリカスミカメ



アカスジカスミカメ

————— 農薬を使用する際は必ず最新の農薬登録情報を確認してください —————

農林水産省「農薬情報」 https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/
 農林水産省「農薬登録情報提供システム」 <https://pesticide.maff.go.jp/>

～青森県農薬危害防止運動展開中！（6月1日～8月31日）～

- 農作物や使用者の安全のため、農薬は使用基準を守って使用しよう！
- 農薬散布の際は、周辺に農薬を飛散させないようにしよう！

【問合せ先】 〒030-0113 青森市第二問屋町4-11-6
 TEL:017-729-1717 FAX:017-729-1900
 E-mail byogaichu@pref.aomori.lg.jp

※当情報は青森県農業・就農情報サイト「農ナビ青森」(<https://www.nounavi-aomori.jp/>) に掲載しています。